

Title	ジャンビアーニ変種記述調査報告（2）：文法概要
Author(s)	宮崎, 久美子
Citation	スワヒリ&アフリカ研究. 2014, 25, p. 145-161
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/72986
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

ジャンビアーニ変種記述調査報告 (2)

一文法概要一

宮崎 久美子

0. はじめに

ザンジバル南部県南部郡のジャンビアーニで話されている変種は、マクンドゥチ変種 (Kimakunduchi)の一つとして扱われることが多い。マクンドゥチ変種は、ザンジバル島東南部、東部で話され南部マクンドゥチを中心にチュワカ、ブウェジュ、パジェ、ジャンビアーニ、キジムカジ、そしてウジ諸島など広い範囲に及んで話されているといわれているが(Nurse 1993, Chum 1994)、話されている地域によって違いがみられ、地域それぞれの変種があるといえる。そして、それらの変種に関する先行研究はほとんどなされていない。

ジャンビアーニ変種の話者は、ジャンビアーニ変種とザンジバルタウンで話されるザンジバルタウン変種(Kimjini)は異なったものだとして認識している。さらにジャンビアーニ変種の中でも「昔の (Kijamibani ya Zamani) ジャンビアーニ変種」、「今の (Kijambiani ya Kisasa) ジャンビアーニ変種」として認識されており、若い世代は「昔の」ジャンビアーニ変種を知らないという人もいる。それらの差異は語彙、文法面においてもしばしば見受けられる。本稿では、筆者がこれまでに得た調査結果をもとにスワヒリ語ジャンビアーニ変種の文法の概要を示す¹⁾。

1. 音声と表記

ジャンビアーニ変種には、母音が5個、子音が22個存在する。母音には長短の対立はない。表記はすべて標準スワヒリ語の正書法に準ずるものとする。

¹⁾ 本稿は2011年度から科学研究費補助金1の援助を受けて行っている調査結果の報告の一部である。調査は、タンザニア連合共和国ザンジバル島南部県南部郡ジャンビアーニ村キカディニ地区にて行った。調査対象者は、ジャンビアーニ村生まれ、在住のN氏(推定82歳)である。調査では、標準スワヒリ語での質問に対し、調査対象者本人が日常用いている変種で回答してもらい、必要に応じてジャンビアーニ在住のN氏の娘A氏に通訳、説明を依頼した。

母音

a [a] e [e] i [i] o [ɔ] u [u]

子音

破裂音 : p [p] b [b] t [t] d [d] k [k] g [g]

摩擦音 : f [f] v [v] s [s] z [z] sh [ʃ] h [h]

破擦音 : ch [tʃ] j [tʃ~dʒ]

鼻音 : m [m] n [n] ny [ɲ] ng' [ŋ]

流音 : l [l] r [r]

接近音 : w [w] y [j]

2. 名詞類

2.1 名詞クラス概要

ジャンビアーニ変種には 16 個の名詞クラスが認められる。1-2 クラス、3-4 クラス、5-6 クラス、7-8 クラス、9-10 クラスが単数形－複数形のペアとなっており、11 クラスは、11-4 クラス、11-6 クラス、11-10 クラスという複数形－単数形のペアをなしている。抽象名詞のクラスである 14 クラスは、ペアをなす複数形をもたないものと 14-6 クラスというペアをなすものがある。15 クラスは動詞の不定形のクラス、16～18 クラスは場所名詞のクラスとなっている。名詞は「名詞クラス接頭辞－名詞語幹」という構造になっている。各クラスの名詞クラス接頭辞と名詞の例を表 1 に挙げる。

2.2 連体修飾語

ジャンビアーニ変種の連体修飾語は「接頭辞－語幹」という構造をとる。修飾語には名詞クラスに呼応した接頭辞がつくが、形容詞接辞をとるものと主語接辞をとるものがある。形容詞接辞をとるものには性質形容詞、数量形容詞があり、主語接辞をとるものには所有詞、指示詞、名詞修飾辞-a がある。

表 1: 名詞クラス一覧

	クラス接頭辞(名詞例と意味)	主語 接辞	目的語 接辞	形容詞 接辞	属辞 -a	指示詞 「この」
1SG		n-, ni-	n-			
2SG		ku-/u-	ku-			
1PL		tu-	tu-			
2PL		m-	ku- ²			
1	m- (mtu 人)	ka-/a-/ yu-	m-	m-	ya	yuno
2	wa- (watu 人々)	wa-	wa-	wa-	wa	wano
3	m- (mti 木)	u-	u-	m-	wa	uno
4	mi- (miti 木々)	i-	i-	mi-	ya	ino
5	ji- / φ (jicho 目/papai パパイヤ)	li-	li-	ji- / φ	lya	lino
6	ma- (macho 目/mapapai パパイヤ)	ya-	ya-	ma-	ya	yano
7	ki- (kitabu 本)	ki-	ki-	ki-	cha	kino
8	vi- (vitabu 本)	vi-	vi-	vi-	vya	vino
9	n- / φ (ngoma 太鼓/kamba 縄)	i-	i-	n- / φ	ya	ino
10	n- / φ (ngoma 太鼓/kamba 縄)	zi-	zi-	n- / φ	za	zino
11	u- (ukuta 壁)	u-	u-	m-	wa	uno
14	u- (ugonjwa 病気)	u-	u-	m-	wa	uno
15	ku- (kusoma 勉強すること)	ku-	ku-	ku-	kwa	kuno
16	va- (mahaa 場所 ³)	va-	va-	va-	va	vano
17	ku- (mahaa 場所 ⁴)	ku-	ku-	ku-	kwa	kuno
18	m- (mahaa 場所 ⁵)	m-	m-	m-	mwa	mno

2) 2人称の目的語接辞は単数、複数ともに ku-であるが、複数で用いられる場合は後末尾辞-ni とともにあらわれる。

3) 話し手、聞き手から近い場所

4) 話し手、聞き手から近い場所

5) 何かの中にある場所

<形容詞接辞-語幹>

wanakele wa-dogo	「小さい子どもたち」
子ども 2 APx2-小さい	
miti mi-ingi > mingi	「多くの木」
木 4 APx4-多くの	

<主語接辞-語幹>

jina li-angu > lyangu	「私の名前」
名前 5 SM5- 私の	
ngoma i-no	「この太鼓」
太鼓 9 SM9-この	
majani ya-a > ya chai	「お茶の葉」
葉 6 SM6-NM 茶	

3. 動詞

3.1 動詞の構造

ジャンビアニ変種の動詞の構造は以下のとおりである。() 内に示すものは必須要素ではない。

主語接辞－時制接辞－（目的語接辞）－語根－（派生接辞）－末尾辞－（後末尾辞）

主語接辞と目的語接辞はそれぞれ、文中の主語名詞、目的語名詞のクラスに呼応する。文中にそれらの名詞があらわれない場合はそれぞれ代名詞としてはたらく。各クラスに呼応する主語接辞、目的語接辞は表 1 に示したとおりである。なお、動詞構造の前後におかれることのある独立人称代名詞は必須の要素ではなく、特に強調を表したい場合を除いては文中にあらわれることがほとんどない。否定形の場合は、否定主語接辞は必須の要素である。人称否定主語接辞は以下のとおりである。

人称否定主語接辞

人称	単数	複数
1	si-	hatu-
2	hu-	ham-
3	ha-	hawa-

ジャンビアーニ変種のテンス・アスペクト・ムードは、以下に示す接辞を用いて表される。過去形では、末尾辞として語根内最終母音が用いられる。本稿ではこれを-Vと表す。

時制接辞

-na-	現在
-cha-	未来
-ø-	過去
-me-	完了
-li-	過去否定
-isi-	完結
-ja-	未完了
-ka-	継起, 同時, 条件
-nge-	仮想
-kali-	継続

末尾辞

-a	基本形
-V	過去形
-e	接続形

3.2 テンス・アスペクト・ムード

以下、ジャンビアーニ変種のテンス・アスペクト体系について概観する。

現在：SM-na-語根-a

(1) a. ka-na-som-a Kiswahili

SM3SG-PRS-学ぶ-BF スワヒリ語 7

「彼はスワヒリ語を学ぶ／学んでいる」

ただし、主語が 1 人称単数の場合は主語接辞が脱落して(1b)のようになる。

b. \emptyset -na-som-a Kiswahili

\emptyset -PRS-学ぶ-BF スワヒリ語 7

「私はスワヒリ語を学ぶ／学んでいる」

現在否定 : NegSM-na-語根-a

(2) si-na-som-a Kiswahili

NegSM1SG-PRS-学ぶ-BF スワヒリ語 7

「私はスワヒリ語を学んでいない」

過去 : SM- \emptyset -語根-V

過去肯定形では語根内最終母音が末尾辞として用いられる。

(3) n-som-o kitabu

SM1-読む-PstF 本 7

「私は本を読んだ」

過去否定 : NegSM-li-語根-a

(4) si-li-som-a kitabu

NegSM1SG-PAST-学ぶ-BF 本 7

「私は本を読まなかった」

未来 : SM-cha-語根-a

(5) a. ka-cha-som-a Kiswahili

SM3SG-FUT-学ぶ-BF スワヒリ語 7

「彼はスワヒリ語を学ぶつもりだ」

ただし、主語が 1SG の場合のみ主語接辞が脱落して(5b)のようになる。

b. \emptyset -cha-som-a Kiswahili

\emptyset -FUT-学ぶ-BF スワヒリ語 7

「私はスワヒリ語を学ぶつもりだ」

未来否定：NegSM-cha-語根-a

(6) si-cha-som-a Kiswahili

NegSM1SG-FUT-学ぶ-BF スワヒリ語 7

「私はスワヒリ語を学ばないだろう」

完了：SM-me-語根-a

完了時制は過去のある時点で起こった動作、状態が今でも続いていることを表す。標準スワヒリ語も時制接辞-me-を用いて完了を表すが、ほとんどの動詞がこの完了時制接辞をとることができる。ジャンビアーニ変種の場合、状態動詞の多くは-me-を用いて完了を表すが、一般動詞には-me-を用いることができないものも多く、それらは過去時制で表されることが多い。

(7) n-me-nunu-a kitabu

SM1SG-PERF-買う-BF 本 7

「私は本を（すでに）買った」

未完了：NegSM-ja-語根-a

(8) si-ja-nunu-a kitabu

NegSM1SG-IPFV-買う-BF 本 7

「私は本をまだ買っていない」

完結：SM-isi-語根-a

完結時制は、動作、状態が完全に完了しており今は続いていないことを表す。

(9) n-isi-som-a kitabu

SM1SG-COMPL-読む-BF 本 7

「私は本を読み終えた」

継起，同時，条件：SM-ka-語根-a

(10)a. a-ka-som-a kitabu

SM3SG-CONS-読む-BF 本 7

「彼は本を読んだ／読みつつ／読んだら」

ただし、主語が 1 人称単数の場合、(10b)のように表れる。

b. n-ka-som-a kitabu > hasoma kitabu

SM1SG-CONS-読む-BF 本 7

「私は本を読んだ／読みつつ／読んだら」

否定条件：SM-si-po-語根-a

(11) n-si-po-som-a kitabu

SM1SG-Neg-Rel16-読む-BF 本 7

「私が本を読まないなら」

仮想：SM-nge-語根-a

(12) u-nge-som-a Kiswahili

SM2SG-IRR-学ぶ-BF スワヒリ語 7

「もしあなたがスワヒリ語を学んでいたとしたら」

否定仮想：SM-si-nge-語根-a

(13) u-si-nge-som-a Kiswahili

SM2SG-Neg-IRR-学ぶ-BF スワヒリ語 7

「もしあなたがスワヒリ語を学んでいなかったとしたら」

継続：SM-kali-語根-a

(14)a. a-kali a-ka-som-a Kiswahili

SM3SG-PERS SM3SG-CONS-学ぶ-BF スワヒリ語 7

「彼はまだスワヒリ語を学んでいる」

若い世代は-kali の代わりに-ngali を用いる。

b. a-ngali a-ka-som-a

Kiswahili

SM3SG-PERS SM3SG-CONS-学ぶ-BF スワヒリ語 7

4. 文の種類

3 節で挙げた例文はいずれも動詞を用いた動詞文である。以下に、3 節では扱わなかった、動詞文以外の文および疑問文、依頼文の例を挙げる。

4.1 コピュラ文

現在 : SM-wa

(15) Mie ni-wa mwanafuzi

PRO1SG SM1SG-Be 学生 1

「私は学生だ」

現在否定 : NegSM-li

(16) Mie si-li mwanafuzi

PRO1SG NegSM1SG-Be 学生 1

「私は学生ではない」

過去 : SM-BePAST

過去形では、-wa の代わりに過去形の be 動詞にあたる-evu が使われるが、若い世代では、(17b)の例のように-evu と-wa が合わせて使われる例もみられる。

(17)a. ni-evu > nyevu mwanafunzi

SM1SG-BePAST 学生 1

「私は学生だった」

b. ni-evu ni-wa > nyevu niwa mwanafunzi

SM-BePAST SM1SG-Be 学生 1

「私は学生だった」

過去否定 : SM-BePAST NegSM-Be

(18) ni-evu si-li > nyevu sili mwanafunzi

SM1SG-BePAST NegSM1SG-Be 学生 1

「私は学生ではなかった」

未来 : SM-FUT-Be

(19) n-cha-wa mwalimu

SM1SG-FUT-Be 先生 1

「私は先生になるだろう」

未来 : NegSM-FUT-Be

(20) si-cha-wa mwalimu

NegSM1SG-FUT-Be 先生 1

「私は先生にならないだろう」

4.2 所有文

所有文では「～と共に」という意味をもつ-na を使って表される。現在形は、主語接辞 -na という形で表される。その他の時制は-wa を用いて表され、過去形では過去形の be 動詞にあたる-evu を用いて表される。

現在 : SM-na 「～と共に」

(21) ku-na pesa

SM2SG-na 金 10

「あなたはお金を持っている」

現在否定 : NegSM-na

(22) hu-na pesa

NegSM2SG-na 金 10

「あなたはお金を持っていない」

過去 : SM-BePAST na

(23) ku-evu > kwevu na pesa

SM2SG-BePAST na 金 10

「あなたはお金を持っていた」

過去否定 : NegSM-BePAST NegSM-na

(24) ku-evu si-na > kwevu sina pesa

NegSM2SG-BePAST NegSM1SG na 金 10

「あなたはお金を持っていなかった」

未来 : SM-FUT-Be na

(25) tu-cha-wa na kazi

SM3PL-FUT-Be na 仕事 9

「私たちは仕事があるだろう」

未来否定 : NegSM-FUT na

(26) hatu-cha-wa na kazi

NegSM3PL-FUT-Be na 仕事 9

「私たちは仕事がないだろう」

4.3 存在文

現在時制では存在辞の使用は必須ではなく、場所を特定する必要がある場合を除き存在辞は使われない。ただし、その他の時制では存在辞は常に使われる。

現在 : SM-Be

(27) wa-wa nyumbani

SM3PL-Be 家に 16

「彼らは家にいる」

現在否定 : NegSM-Be

(28) hawa-li nyumbani

NegSM3PL-Be 家に 16

「彼らは家にいない」

過去 : SM-BePAST-LOC

(29) wa-evu-vo > wevuvo nyumbani

SM3PL-BePAST-LOC16 家に 16

「彼らは家にいた」

過去否定 : SM-BePAST NegSM-Be-LOC

(30) wa-evu > wevu hawa-vo nyumbani

SM3PL-BePAST NegSM3PL-Be-LOC16 家に 16

「彼らは家にいなかった」

未来 : SM-FUT-Be-LOC

(31) wa-cha-wa-vo vano

SM3PL-FUT-Be-LOC16 DEMN16

「彼らはここにいるだろう」

未来否定 : NegSM-FUT-Be-LOC

(32) hawa-cha-wa-vo vano

NegSM3PL-FUT-Be-LOC16 DEMN16

「彼らはここにはいないだろう」

4.4 疑問文

ジャンビアーニ変種の疑問文では語順変化はみられない。疑問詞文については、nini「何」、nani「誰」、lini「いつ」、wapi「どこ」、jaje「どのように」、gani「どんな」といった疑問詞を付加して表される。疑問詞は疑問詞文末におかれることが多く、強調を表す場合には文頭におかれる。

- (33) ka-cha-vik-a lini?
 SM3SG-FUT-料理する Q いつ
 「彼女はいつ料理するのですか？」
- (34) ka-end-e > kende wapi?
 SM3SG-行く・PstF Q どこ
 「彼はどこへ行ったのですか？」
- (35) ku-m-on-o nani?
 SM2SG-OM3SG-会う・PstF Q 誰
 「あなたは誰に会ったのですか？」
- (36) mkate uno u-vik-w-a jaje?
 パン 3 DEMN3 SM3-料理する・PASS-BF Q どうやって
 「このパンはどうやって作られたの？」
- (37) ku-na-som-a kitabu gani?
 SM2PL-PRS-読む・BF 本 7 Q どんな
 「どんな本を読んでいるのですか？」

4.5 依頼・提案

依頼、提案を表す文には接続形が用いられる。接続形の構造は以下のとおりである。

() 内の要素は必須ではない。

肯定文：主語接辞－(目的語接辞)－語根－(派生接辞)－接続形末尾辞－(後末尾辞)

否定文：主語接辞－否定辞－(目的語接辞)－語根－(派生接辞)－接続形末尾辞

－(後末尾辞)

- (38) u-tu-vik-i-e vyamchana
 SM2SG-OM1PL-料理する・APPL-SBJF 昼食 7
 「私たちに昼食を作って下さい」
- (39) u-si-wa-nyw-es-e maji yano
 SM2SG-Neg-OM3PL-飲む・CAUS-SBJF 水 6 DEMN6
 「彼らにこの水を飲まさないで下さい」

他言語からの借用語の動詞で基本形末尾辞・a を持たないものは、接続形末尾辞・e が付かない。

(40) tu-rudi nyumbani

SM1PL-帰る 家に 17

「家に帰ろう」

4.6 命令

命令には命令形が用いられる。相手が 2 人称単数の場合は「語根－基本語尾」をそのまま用いるが、相手が 2 人称複数の場合は末尾辞の後ろに対複数命令後末尾辞の・ni を伴う。

(41) uk-a

出ていく・BF

「出ていきなさい」

(42) uk-a-ni

出ていく・BF・ImpPL

「みなさん、出ていきなさい」

-enda 「行く」、-ja 「来る」、-leta 「持ってくる」といった動詞は不規則変化となる。

(43) wenend-a

行く Imp-BF

「行きなさい」

(44) wenend-a-ni

行く Imp-BF・ImpPL

「みなさん、行きなさい」

(45) njo

来る Imp

「来なさい」

(46) njo-ni

来る Imp·ImpPL

「みなさん、来なさい」

(47) let-e

持ってくる Imp·SBJF

「持ってきてなさい」

(48) let-e-ni

持ってくる Imp·SBJF·ImpPL

「みなさん持ってきてなさい」

否定形は接続形の否定形と同じ形になる。

(49) u-si-nyw-e maji yano

SM2SG·Neg·飲む·SBJF 水 6 DEMN6

「この水を飲んではいけない」

(50) m-si-m-sikiliz-e

SM2PL·Neg·OM3SG·聴·SBJF

「あなたたちは彼の言うことを聴いてはいけない」

4.7 従属節

条件

(51) kama a-ka-j-a m-voke-e

もし SM3SG·CONT·来る·BF OM3SG·受け取る·SBJF

「もし彼が来たら迎えてやって」

時

(52) n-vyo-lamk-a Juma a-ka-j-a nyumbani

SM1SG·Rel16·起きる·BF ジュマ SM3SG·CONT·来る·BF 家に 17

「私が起きた時，ジュマが家にやって来た」

仮想

(53) kama m-nge-vi-ju-a n-si-nge-ku-ambi-a-ni

もし SM2PL-IRR-OM8-知る-BF SM1SG-Neg-IRR-OM2PL-言う-BF-ImpPL

「あなたが知っていたら、私はあなたたちに言わなかったのに」

副詞節

以下のような目的を表す副詞節は接続形で表される。

(54) m-k-e kisu a-kat-e

OM3SG-与える-SBJF ナイフ 7 SM3SG-切る-SBJF

「彼が切るためにナイフを渡してあげて」

5. 終わりに

本稿では、ジャンビアーニ変種の文法についてその概要を示したが、この他にも調査、考察が必要な項目が多く残っている。動詞の派生形など調査がまだ不十分で今回報告ができていないものもある。これらの残された課題も含め、さらに調査を重ね、さらに詳しくジャンビアーニ変種の文法について報告していく。

略号一覧

—	形態素境界	1SG, 1PL	1 人称単数・複数
2SG, 2PL	2 人称単数・複数	3SG, 3PL	3 人称単数・複数
APPL	適用形接辞	AP _x	形容詞接頭辞
Be	Be 動詞に相当するもの	BF	基本形末尾辞
CONJ	接続詞	CAUS:	使役形
COMPL	完結	CONT	継続
COP	コピュラ	DEM _N	指示詞（近称）
FUT	未来	Imp	命令接尾辞
ImpPL	対複数命令後末尾辞	IPFV	未完了
IRR	仮想接辞	LOC	場所名詞接頭辞
Neg	否定接辞	NP _x	名詞接頭辞
OM	目的語接辞	PASS	受動形
PAST	過去	PERS	継続
PRS	現在	PFV	完了
Q	疑問詞	SB _{JF}	接続形語尾
SM	主語接辞	(数字)	クラス番号

参考文献

- Nurse, D. & T. J. Hinnebusch. 1993. *Swahili and Sabaki: A Linguistic History*. University of California Press.
- Chum, Haji. 1994. *Msamiati wa pekee wa Kikae*: Kae Specific Vocabulary. Nordic Association of African Studies.
- 宮崎久美子. 2013. 「ジャンビアーニ変種記述調査報告(1)ー基礎語彙 600 語ー」『スワヒリ&アフリカ研究』24. 32-49.